

2025年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

専門科目 日本文学 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

2025年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

専門科目 (日本文学 専攻分野)

成	
績	

(注意事項) ① 第一問の解答は、答案紙二十行程度を標準とする。

② 第二問 1から5までの解答は、それぞれ答案紙八行程度を標準とする。

③ 第五問の解答は、答案紙十七行程度を標準とする。

④ 第一問から第五問まで、すべて縦書きで解答すること。

一、文学研究の意義とは何か、自身の見解を丁寧に述べなさい。その上で、大学院で行う予定の自身の研究のテーマ、目的、方法を具体的に説明しなさい。

二、次の事項について説明しなさい。

1 『日本霊異記』の文体と内容

2 在原業平

3 阿仏尼

4 『南総里見八犬伝』の内容と特質

5 森鷗外の文学活動

三、次の記述を翻字するとともに、この記述が収められている作品の名を答えなさい。

あつひをかんがひもむたふれせんよ
おのれをかんがひもむたふれせんよ
おのれをかんがひもむたふれせんよ

〔翻字〕

〔作品の名〕

四、次の文章は、『土左日記』の末尾部分である。全文を言葉を補いつつ、意味が通るように丁寧に口語訳しなさい。

思ひ出でぬことなく思ひ恋しきがうちに、この家にて生まれし女子むすめの、もろともに帰らねばいかがは悲しき。船人はねりもみな子たかりてののしる。かかるうちになほ悲しきに堪たへずして、ひそかに心知れる人といへりける歌、

生まれしも帰らぬものをわが宿に小松のあるを見るが悲しき
とぞいへる。なほ飽かずやあらむ、またかくなむ、

見し人の松の千歳に見ましかば遠く悲しき別れせましや
忘れがたく口惜しきこと多かれど、え尽くさず。とまれかうまれ、とく破やぶりてむ。

五、 次の文章は、尾崎翠「第七官界彷徨」(『新興芸術研究』、昭和六年六月)の冒頭部である。この小説を読み解く上で重要なポイントとなり得ると考えられる事項(モチーフ)と表現・語りの特性について、本文の記述を抜き出しながら説明せよ。なお、複数の事項(モチーフ)や表現等を取り上げてもよい。

著作権の都合上、この部分をご覧いただけません。

